

122  
74

東 京 圖 書 館

七 五 冊	20 七 八 號	三 六 架	小 說 類	和 書 門
-------------	-------------------	-------------	-------------	-------------

繪本通俗三國志

二編

六



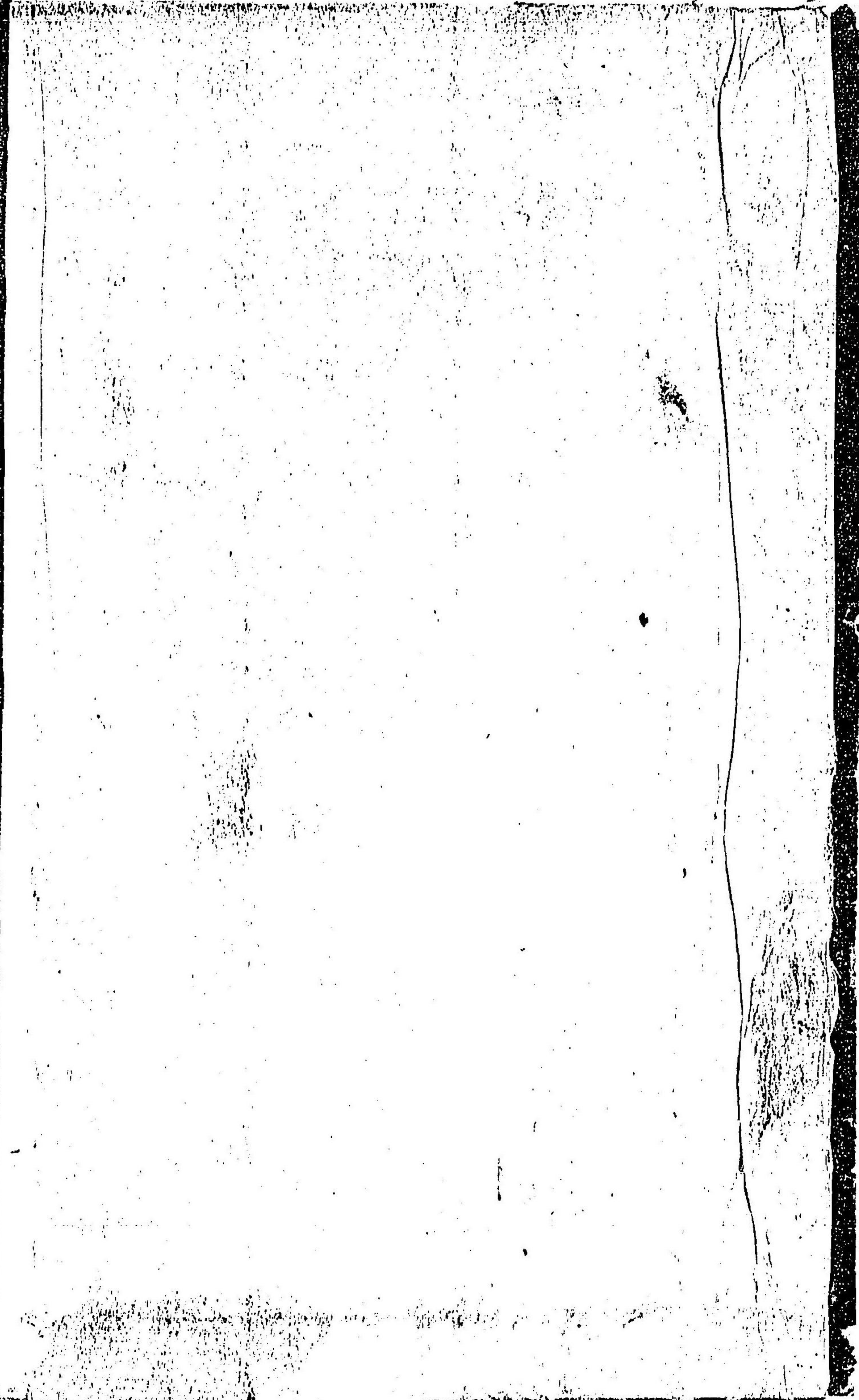
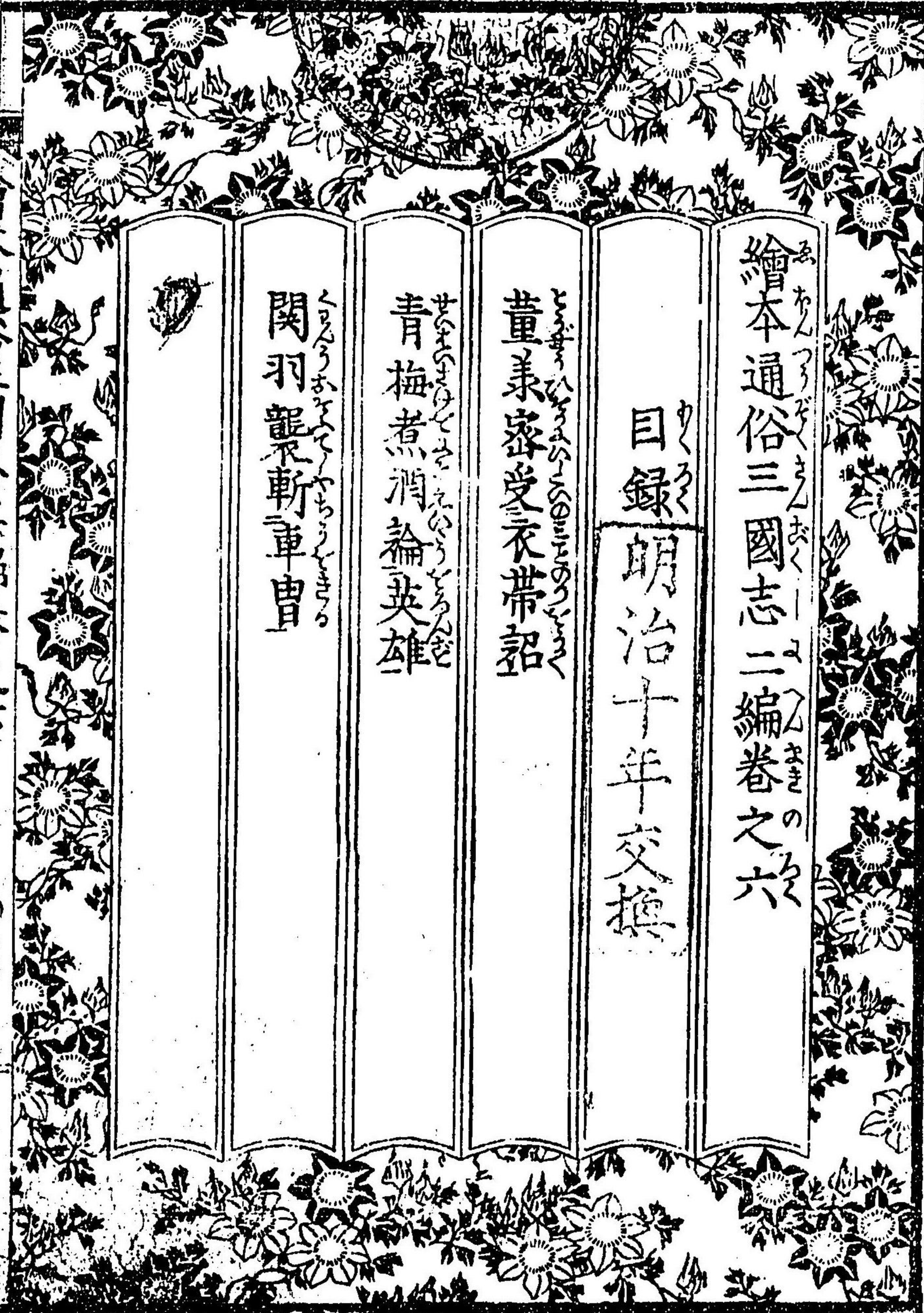
繪本通俗三國志二編卷之六

目錄明治十年交換

董美密受衣帶詔

青梅煮酒論英雄

関羽襲斬車胄



柴山追カケラレテ雪隠ニシテ

三國中一見タカカリ

繪本通俗三國志二編卷之六

董承密受衣帶詔

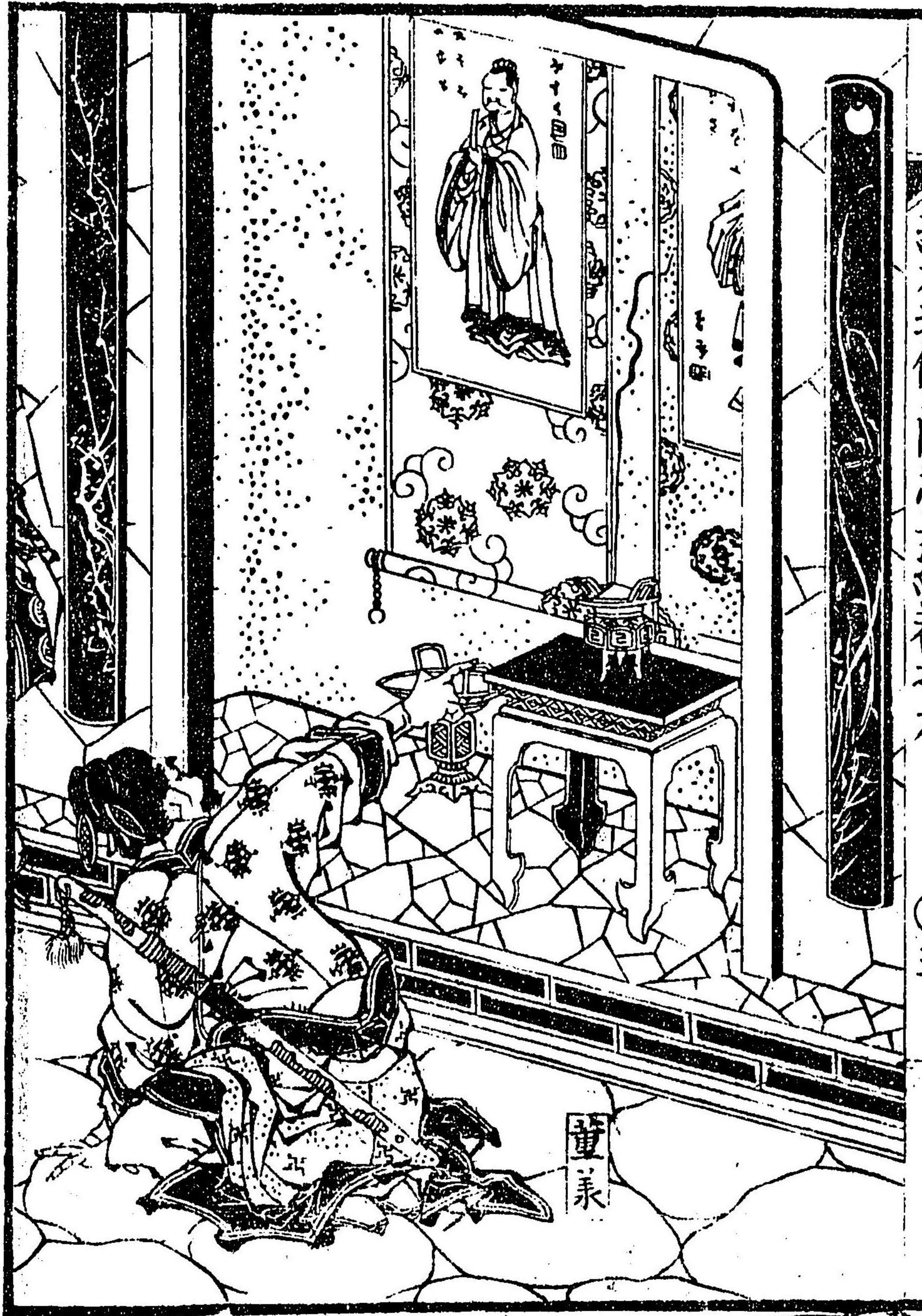
帝の獵場より還幸ありその夜沛涑と押すひとて伏皇后  
の言を宣ひひろく哀なる朕位を即すより逆臣打流す世に出  
けしめ董卓が刃を受て後李傕郭汜が乱まあひ一日片肘に  
安んじとありし曹操と得んよるあび是と天下を平定し朕  
が股肱となりぬべたものありと頼し安んぬるのわづら國の政事不  
ひまは常に奸計をばて天下を奪んとするの巧あり朕殿上よ  
ありし針の繯を空きとるがまじと今日獵場より鹿と射取朕が前立  
寒がりの方歳と逆し一ひ天逆の針と人のかまは己が威勢と伏  
んこめ多の朕夫婦もいふる夏目あふ何くる死んを知ら

侍傳人等もだめ人の伏皇后宣ひつるの朝廷の百官も四百  
 余年漢の祿を賞しつる一人を忠とはくしつる國の殃を思ふ  
 用あり。なり。哭ぬ。臣ね。天の害を除んとしつる帝  
 あり。伏皇后の父は伏完といふ人あり。をまじり御心とや  
 皇太子腹中の事を知るか。宣が伏完や。并田の  
 鹿と射と雉と齒と切らざらん。曹操が天と奪の巧む。趙  
 高も。帝宣ひつるの朝廷の内。曹操自身ま  
 り。是禍を除くものあらん。伏完や。臣  
 陛下の。國戚も。大事と謀べらば。臣の年  
 妻の威名も。車騎將軍董承の權す。人と服す。

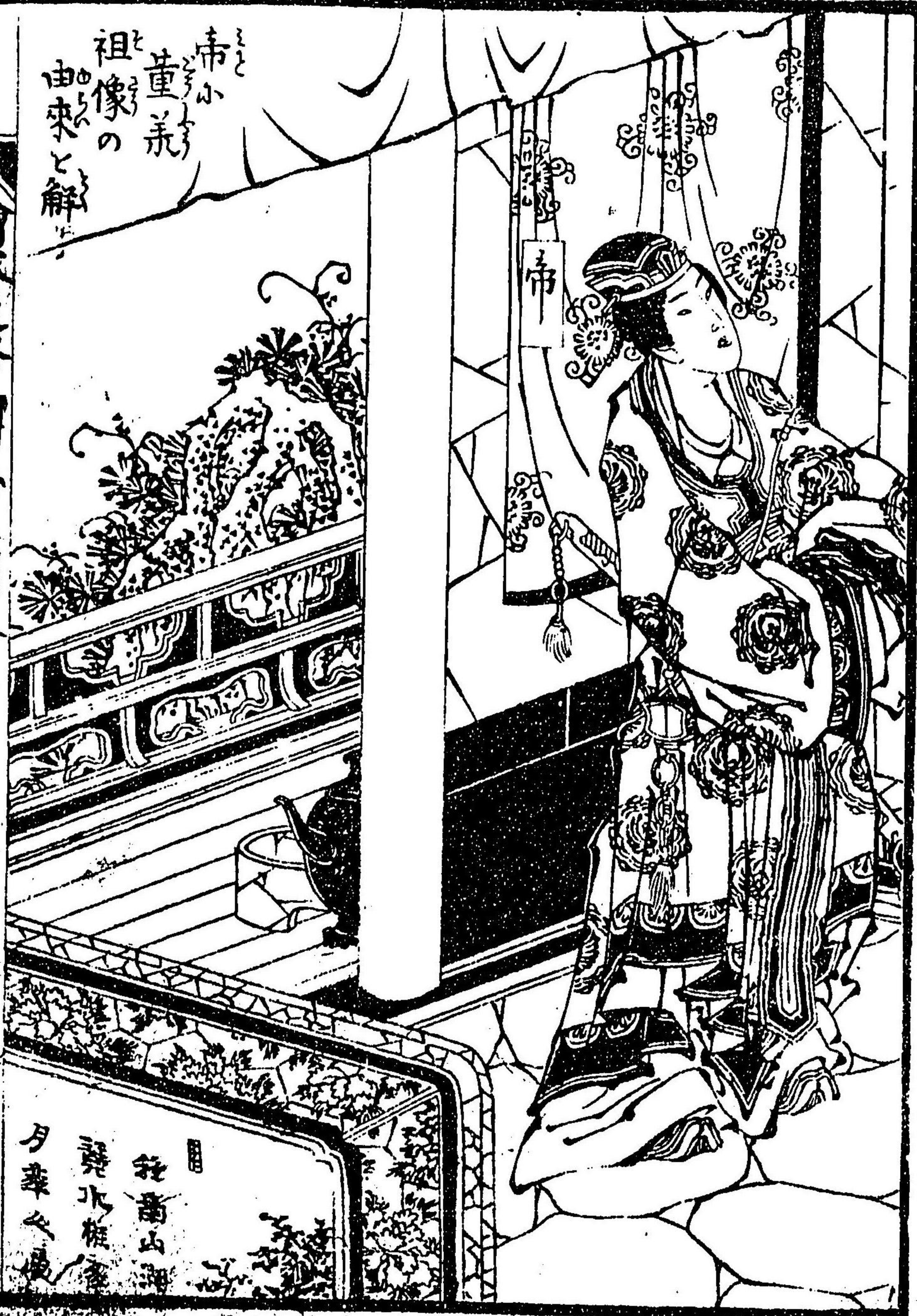
是人と御頼あらば。功とぬ。帝宣ひつ  
 るの董承のむ。西都も。李傕郭汜が難と逃れ。其  
 志のむ。朕も。事と議人伏完や。陛下  
 下は。近侍も。曹操の内應の。方。の事洩  
 と。却と大なる禍と引出さ。人臣す。愚案とら。尋常  
 董承と。御衣一領。玉帶一條。な  
 ひ帯の裡に。密詔と縫入。董承も。家より。披  
 帝の。目。御指  
 詔刻と書。伏皇后も。玉帶の裏に。

錦とてなむ維新の御衣と彼玉帶とを召れ勅と  
 下し董承とまねたゆ董承いとまね内あられが帝ちりやと  
 宣ひらる朕昨杖伏皇后ととも長安より還りたることを物詰  
 しく李催郭記の追きし若く沛身の忠とはくし「功勞  
 とおもひ」あがむまははとあがせし沛身の大功といまむ恩賞と  
 あんざし「あき」ことと悔いすまの朕が左右と離しむつら  
 志の口口寄るごとやと宣へる董承預首とやるる臣あ人の功  
 ありと陛下の左右の侍さるること得ん帝相伴と殿中と出さむ  
 い大廟に入るとたぢらる功臣閣に登りみづら香と焚く漢家歴  
 代の祖宗と拜し壁に掛るの畫像と御覽ある中間は漢の高  
 祖と畫と二十四代の帝と両辺は列かけたりなれ董承むむと朕

先祖といふある人ぞを問ふ董承ヤリタハさむら陛下の帝  
 業とひらたむぢあひい漢の高祖皇帝ありあまは御尋ね  
 ひら帝宣すひらる朕が先祖はくより身とあま「此其業を  
 ひらきむひら卿あつらふその由来と伸よ董承打あつらひら  
 陛下といふ臣はたつたれむら聖祖の事いふらとあつらふこれぬ  
 工とのひらたむヤリタハ帝宣ひらる朕故ありと卿は問辭と  
 ることあふらとまねたゆ董承ヤリタハ高祖皇帝泗上の喜れ  
 長身と起「三尺の劍と提げと白蛇と崆蕩山は斬義兵と揚  
 と四海は縦横」三年は秦とあつらふ五年は楚とあつらふ大  
 漢四百年の天下といひらつら萬世の基と立む入り帝差と宣すひ  
 らる祖はくのまねと英雄あれむら子孫とい朕はく懦弱



董美



帝と董美  
祖像の  
由来と解

龍高山  
鏡水  
月華

あるものあり。まをわがまはるもの。西旁より立つるもの何ある人ど。  
董承やらの上の留侯張良下の節侯蕭何あり。帝宣すひるる。  
よの二人いさる功ありと側を立ど。董承が白高祖基業と用ゆる。  
ころ是二人の功あり。張良の壽と帷幄の中運し。勝と千里の外  
は決し。蕭何の國家と鎮む。百姓と懐け。兵糧と通じ。不足  
ふ。高祖は乃この徳と称し。あ入り。御側らと  
こ。帝は乃帝嘆ぶ。まをわがまはるもの。社稷の臣ありと宣ひ。ころぬ。  
侍らもみられ。董承が前より。御いまより。朕が側立  
と。張良蕭何がまをわがまはるものと宣す。董承頻首を叩く。はは  
人の功あり。是の功ありと。得人帝。宣ひ。先年御り  
長安より。難とさ。この功とあり。朕片肘を。何と

もつ。この功と願せ。と。得人。卿の衣服と玉帶と。著る。朕が  
左右と離。親ら。御衣とぬぎ。王帯と副す。ト  
賜り。董承再拜。と。受。あり。退。早く。此  
す。曹操の告るものあり。帝いま董承と功臣問へ。のあり。あ  
ひ。れ。曹操と。地。来る。董承も。宮門。出。る。が  
い。ふ。曹操が。来。と。急。避。る。路。を。と。心  
怖。戦。ひ。門。の。か。ら。居。たり。曹操ある。と。問。ひ。る。が  
國。舅。い。ば。く。行。む。と。董承答。曰。天子の召。は。應。朝。は  
い。見。へ。なり。これ。錦。の。御衣。と。玉帶。と。ト。賜。へ。り。退。ひ。て  
私。宅。に。回。る。曹操。曰。これ。いま。あ。人の。故。あり。と。賜。る。と。董承。曰  
く。其。先。年。長。安。より。還。幸。の。路。次。より。あり。あ。ひ。賊。徒。と。妨。ま。

功あるをゆして。さきも賞とて賜へり。曹操が白印で。御  
 見せし。董承んも。あやひらるる。帝の御氣色。いさむ。中  
 の密通ある。入る。さき。帝の御氣色。いさむ。曹操  
 士卒。下知して。何を解来。是。非。あ。帯。どう。を。ひ。と。り。よ。く  
 打。ん。と。笑。こ。や。ら。る。さ。い。く。好。玉。ま。その。御。衣。を。と。せ。て  
 へ。董。承。背。の。行。と。ま。じ。ら。む。と。得。ざ。は。の。卸。ぞ。わ。し。け  
 れ。曹。操。す。く。内。外。と。さ。ら。ぬ。日。の。影。と。受。と。は。ぬ。さ。ら。何  
 ひ。その。ち。我。身。の。上。の。さ。ね。着。と。王。帯。と。か。け。左。右。の。さ。め。の。む。ら  
 そ。い。う。よ。ま。は。よ。似。合。し。と。し。ま。ま。よ。く。御。長。は。應。じ。と。似。合。たり。と  
 答。な。れ。曹。操。打。笑。こ。や。ら。る。さ。い。く。長。よ。す。く。應。じ。れ。直。よ  
 中。受。べ。別。よ。又。あの。回。禮。と。い。ま。入。董。承。が。白。君。の。恩。賜。う。ら。ぶ。く

ま。べ。ら。は。巫。相。い。ら。れ。由。り。所。望。ま。る。と。曹。操。が。白。御。辺。の。内。の  
 針。畧。あ。る。よ。う。ひ。び。び。董。承。容。と。改。め。て。ら。ら。る。其。あ。る。人。と。さ。ら。あ  
 ら。ん。巫。相。と。の。御。疑。ま。さ。ら。御。衣。も。王。帯。も。と。と。も。献。ぐ。曹  
 操。が。白。御。辺。と。あ。く。君。乃。賜。と。受。る。と。人。と。櫻。り。取。ん。た。い。さ。か  
 ち。む。ま。あ。う。と。と。返。れ。董。承。虎。口。の。ぐ。ま。た。る。地。し。い。と。私  
 宅。よ。う。の。御。衣。と。な。れ。と。一。物。も。は。さ。ら。天子。さ。ら。つ。も。さ。ら。と。う  
 と。御。手。と。あ。げ。と。指。ば。い。い。何。さ。る。車。の。仔。細。あ。ら。ん。と。あ。や。ひ。け  
 れ。その。ね。の。眠。る。と。う。し。つ。は。業。と。ま。じ。ら。む。又。王。帯。と。い。ふ。の。と。さ  
 玲。瓏。たる。白。玉。小。籠。の。花。と。穿。ゆ。ゆ。と。は。と。狸。よ。む。さ。の。錦。と。さ  
 へ。あ。ら。は。あ。ら。は。あ。ら。の。上。に。あ。ら。は。と。展。と。付。ら。る。ま。ま。の。さ。ら。ら。あ。ら。は  
 へ。あ。ら。は。あ。ら。は。あ。ら。の。さ。ら。ら。あ。ら。の。燈。火。の。風。は。吹。れ。と。丁。子。頭



と其落し玉帶を焼はひてぬきおろしんが打ちおろひて其衣をちぎり  
 玉帯と取てんるる裏より重なる紫の綿を破りて赤く染められた  
 ころもふらふらしく付て空規ひんまぶらする血の色あり切披  
 ひて出せばすめらち白く縮み血をもしり書ける密詔ありその詔詞  
 曰く

朕聞人倫之大父子為先尊卑之殊君臣為  
 重近者探賊出自閣門濫叨佐輔之塔實有  
 欺罔之罪結連黨伍敗壞朝綱勅賞封爵皆  
 非朕意夙夜憂思恐天下將危卿乃国之元  
 老朕之至親可念高皇創業之艱難糾合忠  
 義兩全之烈士殄滅菽黨復安社稷除暴于

未萌祖宗幸甚愴惶破指書詔付卿再四慎  
 之勿令有負  
 建安四年春三月詔

董承見ありと涙をみじまじりて天の君としと奸臣を惱さん  
 せんくもあつふ我とやと何とぞ頼まんといあわしめらんごも事の  
 洩んよと怕まふとまぐ御んとはくもたかものありとぞ御い  
 とくもあつれと思われが寝食をせよとせられ行座をまじらばその  
 詔刻と袖に入と書院より立出再三ひらけ補をとおどあせられた計  
 は書几の上よりひらけたる曹操とせし人計策を思ひ煩ひ少  
 睡り居らるる日比むつまぐ交る侍郎王子服とらふ事の案内を  
 るく出まらり直ぐ書院に入らる董承書几より倚り睡り袖の下を





皇子服  
詔書と  
詔る



皇子

皇子服

皇子服

皇子服

皇子服



多の足下の面を春色と合んと病ありと入る董承ありて  
たやする。黙然と居りて馬騰座と起す。あきま柱石  
の才よあらんとて回らん。董承の一言くまひて再拜し  
あし。足下ありと。柱石の才よあらんとて。いかに問馬  
騰曰。許田の橋を度と射て。恨を肺腑に徹き。足下は  
のち天子の御舅あり。由は徒然と。君とまふと。思ひか  
おと。居りて。董承と誅せんと疑ひ。長嘆し。や  
る曹丞相と世の棟梁をまひんと。及び馬騰怒り。御辺の  
ふ。曹操とて。人あひ。董承が曰。人のまふ。畏  
る。馬騰罵り。生と貪む。死と怖る。もの。大  
事と議す。又起す。董承言と。探りて

とし。忠義の。赤ら。書院は伴行す。足下  
も。元来曹操と誅せ。討畧とせ。足下  
探りて。人あひ。董承と誅せ。御  
ん。蔵。密詔と取。書  
せ。馬騰齒咬と。足下。内應。其の西涼の大  
軍と起す。都へ。上。鬚鬚。倒。上。感  
激。口中。血。董承同志の。人。義状と  
ん。馬騰も。名字と。書。載。盟。六人志  
と。十人。事。成。董承。朝  
廷。旧臣。忠義。兼。備。の。人。稀。容。易。君。又  
ぎ。の本。馬騰。朝。廷。列。坐。行。路



兼きつと向と掩て哭きんを。玄徳問曰。いづるをとありて哭か  
 ぞ。董承曰。漢の朝廷はも。関羽おどの根もちる忠臣あら何  
 ぞ。大平あらざるを思とせ。女徳人の内には。曹操とて。何  
 ぞ。人爲と右とるものあらんと。思とせ。曹丞相と。國と治むる  
 ぞ。患とて。あらんと。いひ。董承色と変とす。天子  
 の皇叔の。も。入て。實と告とる。詠と思ひ。ゆ。玄徳の曰。我詠  
 ちらん。と。心と。戯とる。董承懐す。密詔と取出とす。御  
 覧と。いひ。んを。玄徳。い。悲憤と。涙と。董承曰。

是賊と。伐んと。一。味同心と。人。義状と  
 書と。堅と。盟と。出と。んを。玄徳。第一車騎將  
 軍董承。第一長水校尉。種輯。第二昭信將軍。吳子蘭。第四部

郎中王子服。第五議郎。吳碩。第六西涼之太守。馬騰と。記と。んを。

諸公と。の。忠義の。ま。あつ。と。大馬の。勞と。辞  
 せ。密詔と。賜り。上。命と。失と。る。を。惜と。と。み。の。

義状の。與と。左。劉備と。の。事と。と。針と。の。

兼。家。

青梅煮酒論英雄

玄徳と。董承と。曹操と。村の。村。

其。疑と。ひ。と。避と。人。常と。み。の。後園と。野菜と。は。

水と。董承と。日と。の。関羽と。

兄と。馬の。道と。掛と。人の。事と。野菜と。



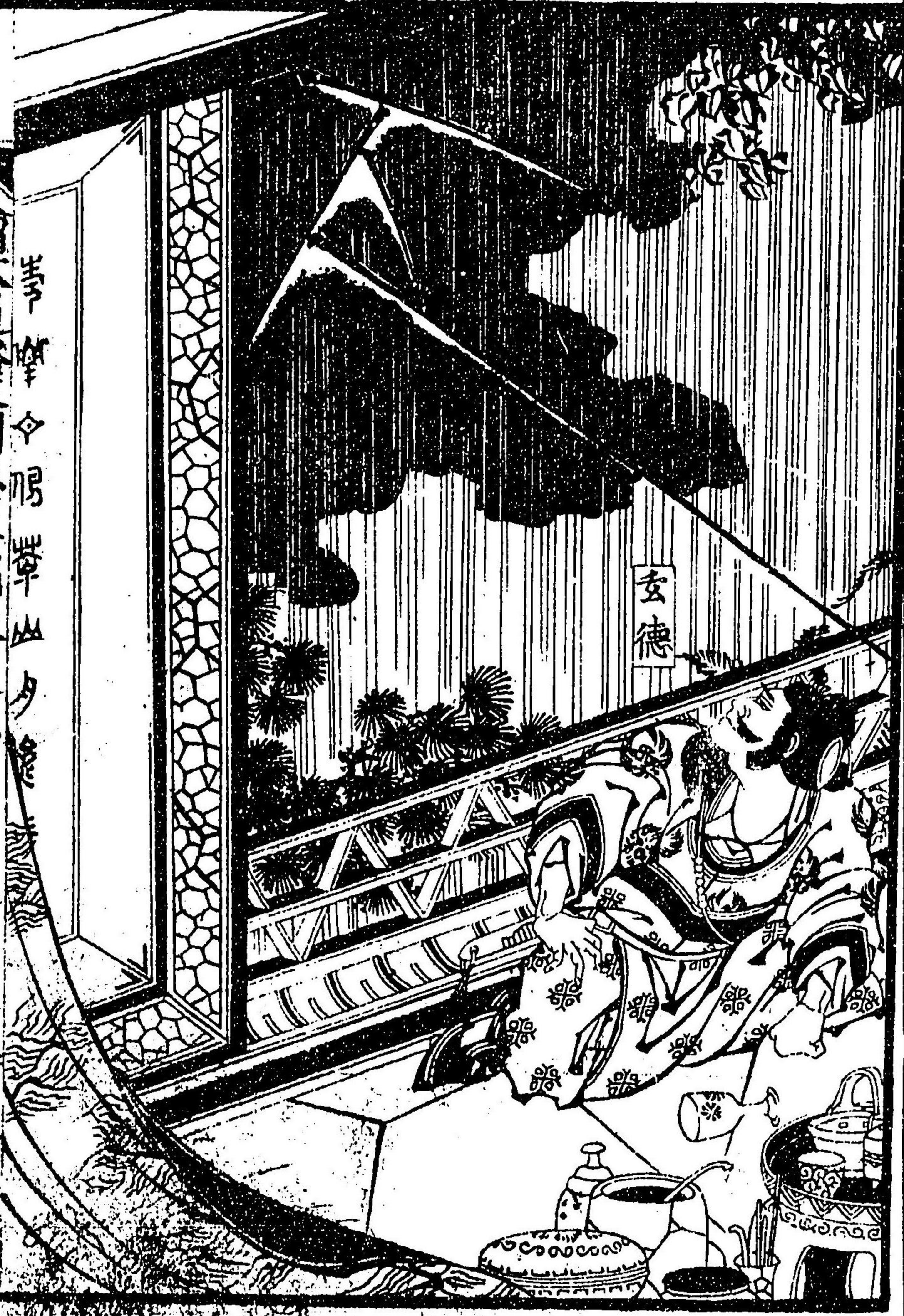


中より夫龍の如く大なる山より升りて霧を吐き雲を興  
 江と翻し海と捲く小なる山より頭を埋め凡と依介を隠し形を藏  
 升るを空の宇宙の間へ飛揚し意を波濤の間に伏藏を龍の  
 本陽物あり。時に從門と變化を方より春深きその時を得たり。  
 人は相比さん龍真るを空へ九天より升り人志氣を得を四海  
 縦横とまの如く龍とせり英雄は比に御辺の四方を經歷し  
 當世の英雄と志の如く人何人かと思ひぬらまらるる  
 又玄徳の曰く凡夫の眼とつていざと人ぞ英雄とまらるる曹  
 操が曰く辞退ふ仕はむいと胸中より定めたるもいざと人  
 の曰く丞相の恩顧を受て朝廷に仕とせざる英雄といふ  
 たらば曹操やらるる。つらきりもいざと定めたる名を聞まむいざと

ねがむ世俗とつて論じ又玄徳の曰く淮南の袁術の兵精く狼  
 足り英雄といふべし。曹操がやらの袁術の塚中の枯骨を  
 みるに不日を生捕り玄徳の曰く河北の袁紹の四代三公は昇り門下  
 故吏やらる。いま冀州の兗路と手下の大將計畧とありはる  
 とまらる。英雄といふべし。曹操が曰く袁紹の色厲く膽薄し  
 奸謀決まるとある。大なる身と惜る小利とる余  
 と輝く。曹操の如く癡疥の軍あり。英雄とつて得る  
 玄徳の曰く荆州の劉表の威九州と鎮と八俊とまらる。英雄と  
 いふべし。曹操が笑ふも劉表の酒色は溺る。多く英雄と  
 ると得る。玄徳の曰く呉の孫策は江東の領袖血氣方剛。英  
 雄といふべし。曹操が笑ふ曰く孫策は父の名を藉黄口の小兒あり



魏志卷之四十五



玄德



曹操

郭嘉

程昱

玄德曹操と  
計く雷声の  
後馬

魏志卷之四十五

四十五

すと承るなり。劍と取つて一突とて、人爲に來り。曹操と  
 と推して、かざりあぐらひひ。あまの古の鴻門の會、あらざらん  
 項莊、項伯とちひんと、ひんが女徳も亦大い笑ゆ。曹操左  
 右のへ、命とて二樊噲、酒と給へ。ひんを、関羽張飛、拜謝  
 酒と飲酒、宴休と。るるを、家と取る、関羽、某二人、兄  
 いり出ゆと、聞と、徒事あぐらんと存ん、あつその外、敬言、女  
 徳いと、著と落つた、とて、語り、関羽張飛、の意と、さる、女徳  
 の、曰、が野菜と化り、雷と畏る。是、曹操とあぐらひん、爲の術と  
 曹操、根の思ひ、兒を、あれを、日夜ひと、うらと、境、人、の、  
 菜と化り、みづから、糞土と撒び、水ととぐと、あぐら、武藝、志気  
 ありと、あぐら、あぐら、と、無用の、人、あぐら、べし。又、著と落つた、

天下の英雄といふを、悉く呑みこむ。俄く雷あり  
 といひ、大い畏る。体ほて、手も持たず、著とあぐら、曹操、  
 ろ、介と、小兒の、どくあぐら、い。志と、我と、害と、さる、  
 語り、あぐら、関羽張飛、と、高明、あぐら、彼と、は、日の、曹操、又、女徳  
 と、まねひ、酒、宴、と、る、満寵、が、帰、を、報、來る、曹操、呼、と、問  
 と、曰、く、河北、は、行、と、袁紹、が、虚実、と、伺、ひ、來、る、満寵、答、へ  
 と、曰、く、河北、も、別、は、替、り、と、る、北平、の、公孫瓚、と、袁紹、  
 減、と、さ、る、女徳、打、驚、ひ、と、や、と、れ、る、公孫瓚、が、親、と、あ、る、  
 といひ、一旦、減、ひ、と、合戦、の、中、と、詳、く、小、法、か、と、り、け、る、満寵、曰、  
 公孫瓚、が、度、の、戦、負、と、あ、り、と、ひ、冀州、と、守、り、大、城、郭、と、  
 と、高、樓、と、造、り、易、京、樓、と、名、付、と、三、千、石、の、兵、糧、と、貯、へ、軍、勢、



丞相とてやうに圖めんとす。女徳奮然としてやまらん。表術も  
河北の行むかめ。徐州の路を通らん。某ねがふが二軍と引  
と馳む。半途より討止ん。曹操もさうも御辺を行む  
とて。我もさうも患ひん。明日天子の奏聞と徑と。早く打交  
を。朱靈路昭とて二人の大将と相副。五万の精兵と借つと。  
は。日の相伴あや朝。出曹操ののちうと奏す。女徳は  
ありと。帝も御涙と浮と送りも。女徳の家を敢りと取る  
の。取めんと。軍馬ととる。將軍の印と腰に付。飛ぶと出  
へ。車騎將軍董承とて。常と聞と。十里亭まぐ。追葉来り。日  
の。約と。常と。曹操と。殊と。計畧と。女徳の曰。御身と。慎と。此

度都と出る。實と。日。計畧と。為と。期と。書  
簡と。告と。董承と。將軍と。常と。事と。  
勅命の重たと。決と。合と。別と。女徳と。  
路と。関羽張飛と。問と。兄と。あ  
あ。都と。出。女徳の曰。龍の中。鳥。網の中  
の。魚。の。都と。出。魚の。大。海。の。青。天。の。上。と。曹操  
の。鼻。と。同。と。樂。と。同。と。一。度。の。変。と。死  
受。と。張。飛。と。實。と。付。と。後。陣。の。朱。靈  
路。昭。と。催。使。と。夜。と。日。と。郭。嘉。の。諸。將。の。巡  
檢。と。出。と。回。り。と。女。徳。兵。と。引。と。徐。州。へ。あ。も。と。開  
め。の。お。り。と。曹。操。と。見。と。水。相。と。女。徳。と。

軍と接ひし。曹操曰く。素術が河北へ行て半途に討てん  
 為さる。程昱も出てやらず。性日玄徳と豫州の牧。討てん  
 ふと其志あり。練や。丞相遂に。今日ま  
 兵と接ひし。龍と大海。虎と深山。入りし。心  
 後にか。郭嘉曰く。もかく。玄徳も  
 雄才あり。民の意よく。敗順と。関羽張飛万人の敵。う  
 ぐく人の。その計畧の深。と。おびが  
 古人も。日敵と。萬世の患。とい。兵と。虎翼  
 と。曹操曰く。玄徳と。何。関冷と。野菜  
 と。酔中。雷と。畏。著と。落。物の用。立人。あ。人。要  
 ると。程昱が。関。と。野菜と。雷と。畏

と著と落。彼ら計畧あり。わ。本。と。丞相  
 の明。天下と。何。と。玄徳一人。迷。曹操は  
 其。足。と。誤。人の。か。接。たりと  
 長嘆。後悔。な。追。生。と。問。人。進  
 と。出。其。五。百。余。騎。と。率。玄徳と。率。り。人  
 人。諸。人。を。虎。賁。校。尉。許。褚。の。曹。操。が。く。と  
 り。と。許。褚。五。百。余。騎。と。引。飛。と。打。ひ。関  
 羽。張。飛。後。陣。を。備。ら。後。馬。烟。と。わ。げ。と。大。勢。の。来。る。か。み  
 ら。追。手。あ。と。玄。徳。の。告。る。陣。と。ま。き。る  
 と。待。間。も。許。褚。勢。ひ。来。と。馳。きた。玄。徳。乃。左。右。の。関  
 羽。張。飛。が。さ。り。と。立。つ。と。續。と。あ。り。ん。と。み

新編 魏志 卷之二十一 孫盛傳



公孫讚



公孫讚  
妻子と  
刺殺し  
自死す

同妻子





時建安四年の五月、玄徳は徐州を下着せられ、曹操は権を太守とし、車騎將軍、車出、城申、請酒宴、持、糜竺、孫乾、ホキ、入、れ、玄徳、旧宅、入、妻、子、出、素、術、が、消、息、と、聞、ね、ま、り、心、を、哀、術、の、皇、帝、の、位、を、僭、す、と、し、淮南、よ、と、冀、大、の、奢、と、し、暴、逆、と、し、人、と、あ、ま、む、と、あ、り、し、相、從、ぐ、も、の、背、を、雷、薄、陳、蘭、と、し、二人、の、大、將、も、嵩、山、へ、落、去、り、ま、り、勢、を、衰、へ、と、入、書、簡、と、し、兄、袁、紹、方、へ、帝、号、と、送、り、る、その、書、に、曰、く、

漢之失天下久矣。天子提攜。政在家門。豪

傑、角、逐、分、列、衣、疆、宇、此、與、周、之、末、年、七、國、分、勢、無、異、卒、強、者、兼、之、耳、袁、氏、受、命、當、王、符、瑞、炳、然、今、君、權、有、四、及、民、戶、百、萬、以、疆、則、無、此、比、大、論、德、則、無、此、比、高、曹、操、欲、扶、衰、抹、弱、安、能、續、絕、命、救、已、滅、乎、今、納、上、帝、号、請、早、即、皇、帝、位、共、享、萬、世、之、洪、基、不、可、失、此、機、會、傳、國、壘、續、當、獻、上、弟、術、百、拜

袁紹の天子の望をあり、其の書を以て、術は河北を以て、天子御用の物と車を載せ、徐州に打奔、人馬を收拾、天子御用の物と車を載せ、徐州に



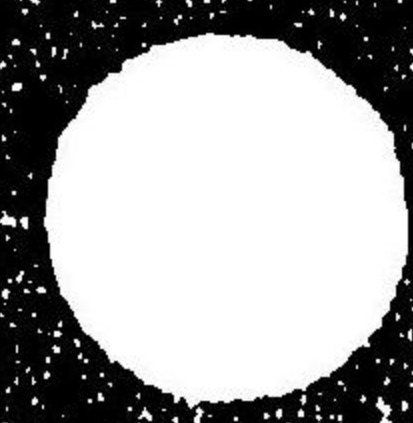
渭とやめんとして、（あつたん） 窟入（くわく）よりえりて、（しん） 血水（けつすい）をあんと、（しん） 密水（みつすい）をばしといひ  
これに袁術大の号人ぞ、（しん） 床のうへより地（ち）は落血（おちち）と吐（な）と二斗あり  
ふして卒（つひ）は死（し）けり。姪（わらわ）の袁胤（えんいん）との流（なが）と収（あ）りて、妻子（さいし）を討（う）具（ぐ）に  
廬江（いろう）とばし、（の） 逃（のが）れり。廣陵（ひろりやう）の徐璆（じゆきう）といふもの、（しん） 討取（うちとり）りて  
傳國（でんこく）の玉璽（ぎよせき）と、曹操（せうそう）の方（かた）へちりりて、（しん） 曹操（せうそう）あまひに賞（しょう）り  
く徐璆（じゆきう）とて高陵（かうりやう）の大守（たいしゆ）に封（あ）じ。玄徳（げんてく）は袁術（えんじゆつ）が亡（な）ひて  
とまきて表（ひょう）と上（あ）つりて、（しん） 朝廷（てうてい）は表（ひょう）を、（しん） 朱靈路昭（しゆりやう）と曹操（せうそう）が  
方（かた）へ回（ま）らして都（みやこ）より従（したが）ひ来（き）まる。五万（ごまん）の勢（せい）と徐州（しゆしゆ）へとちり、（しん） 界（がい）と  
守（まも）らせ、（しん） 恩徳（おんてく）とあどほしと、（しん） 民（たみ）と恤（あは）れぬを、（しん） 國中（こくちゆう）はとて、（しん） 悦服（えつぷく）と  
朱靈路昭（しゆりやう）二人（ふにん）都（みやこ）よりへりて、（しん） 曹操（せうそう）見（み）へん、（しん） 曹操（せうそう）立（た）つての勢（せい）と、（しん） ひ  
まひ来（き）らざるを怒（いか）りて、（しん） 首（くび）と刎（な）んとん、（しん） 荀彧（じゆんぎ）送（ま）つて、（しん） 丞相（じゆうしやう）と

では玄徳と、（しん） 惲（えん）大将（たいしやう）と、（しん） のひりて、（しん） 權柄（けんぺい）とある玄徳一人（げんてくひとり）の取（と）りて、（しん） 朱  
靈路昭（しゆりやう）の手下（てしゆ）ありて、（しん） 下知（げち）と聞（き）をのかり。のしんとて、（しん） 徐州（しゆしゆ）へ使（つか）ひ  
ん、（しん） 討（う）りて、（しん） 書簡（しよかん）とものして、（しん） 車曹（しやそう）と、（しん） 計畧（けいりやく）とさばけ、（しん） 玄徳（げんてく）とあどほ  
い、（しん） 討（う）りて、（しん） 曹操（せうそう）のまひ、（しん） 徐州（しゆしゆ）へ使（つか）ひ  
ん、（しん） 計畧（けいりやく）とて傳（でん）へりて、（しん） 車曹（しやそう）書（しよ）のあひ、（しん） 陳登（ちんてう）と名（な）を  
く、（しん） 議（ぎ）さるる、（しん） 陳登（ちんてう）尸（し）なる、（しん） 玄徳（げんてく）とあるとて、（しん） 易（えい）とて、（しん） 易（えい）  
。城門（じやうもん）は兵（へい）と伏（ふ）せ、（しん） 玄徳（げんてく）とまねりて、（しん） 内（うち）へ入（い）んとて、（しん） 二刀（にとう）を斬（き）  
る、（しん） 某（たれ）の矢倉（やくら）のうへより、（しん） 鎗（やう）と敵（てき）と射（い）とる。車曹（しやそう）大（だい）に、（しん） 兵（へい）の手配（てふけ）とありて、（しん） 玄徳（げんてく）と酒宴（しゆえん）を招（ま）く、（しん） 陳登（ちんてう）の家（いへ）より入り、（しん） 父（ちち）乃  
陳珪（ちんけい）の事（こと）のちりと、（しん） 語（ご）る、（しん） 陳珪（ちんけい）尸（し）なる、（しん） 玄徳（げんてく）へ仁者（にしや）あり、（しん） あま  
殺（ころ）さるる、（しん） のびんる、（しん） 你（なん）を争（ま）り行（い）と。告（つ）げりて、（しん） 陳登（ちんてう）が白（しやく）く、（しん） 某（たれ）は玄

関羽  
月下  
車曹と  
計る



関羽の月下車曹と計る



車曹



関羽の月下車曹と計る



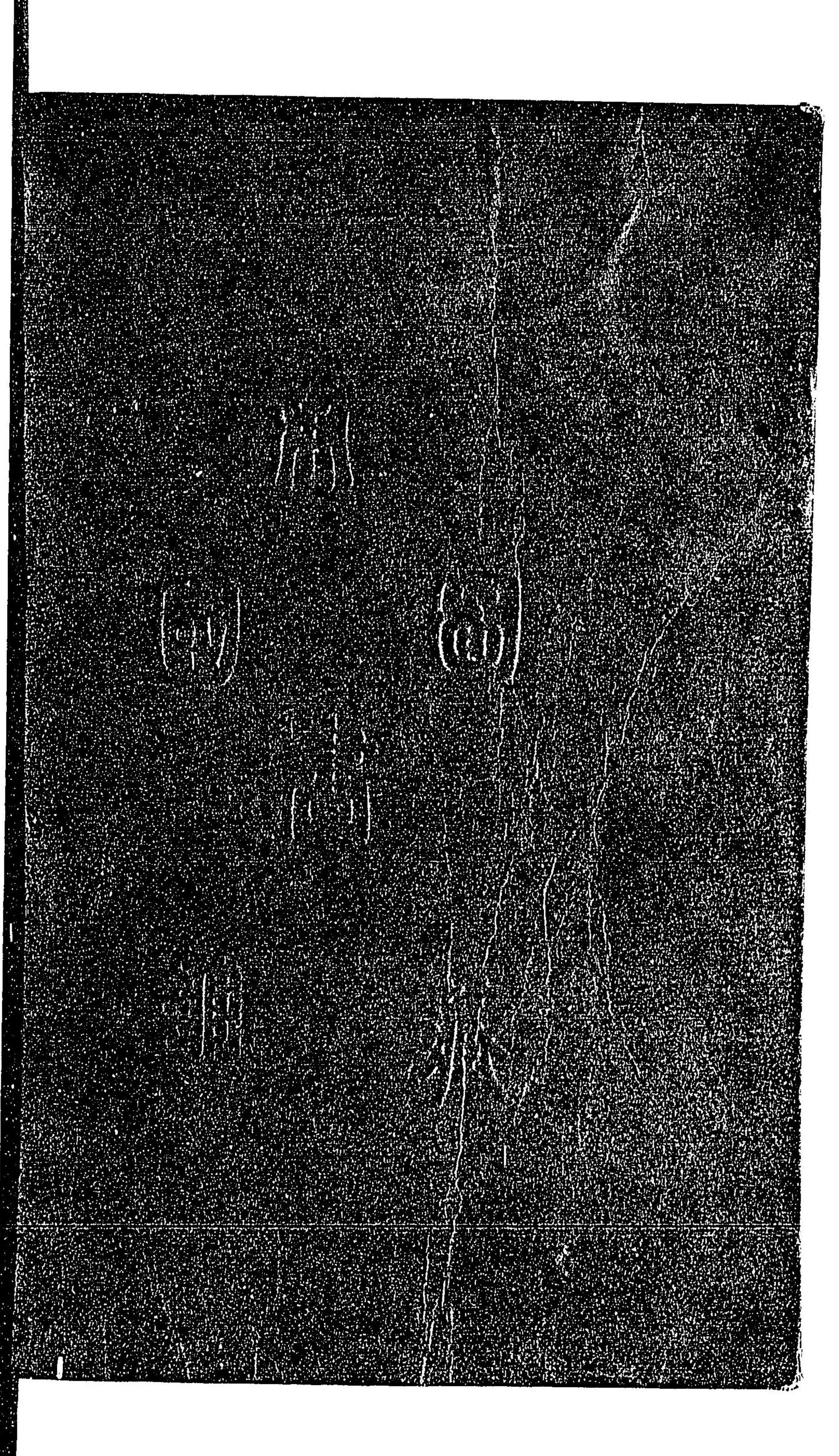


122

74

28





122  
174  
28

繪本通俗三國志

二編  
六